

(1961) から Uhríková a Pesáková (1978) までの 3 つの報告によって、36, 38, 40, 44 の 4 通りを述べており、記載が正しいか否かについては後考を期している。大部分の染色体は載っているが *Centaurea* L. などは *C. pannosa* DC. から *C. spinabadia* Bubani ex Timb.-Lagr. まで 1 ページ以上も載っていないが、これは報告がなかったものである。いずれにせよ全欧州産の全植物とその染色体数がほぼわかるということは染色体数が数えられ始めた頃を考え合わせると今昔の感に絶えないことである。

(前川文夫)

□Goldblatt, Peter: **Index to plant chromosome numbers 1975-1978.** 553 pp. 1981. Missouri Bot. Garden, St. Louis. ¥5,980. これはたった 4 年間の染色体数の報告である。少しは数が減ったかと思っていたが、480 ページを越えるとは驚きである。Dr. R. J. Moore が健康上の理由で引退し、カナダの Ottawa の Biosystematics Research Institute から U. S. A. のセントルイスのミズーリ植物園に移され、将来はそこから続報ができる筈という。Dr. Moore は 1968-1970 を *Regnum Vegetabile* Vol. 68 (1970) に出し、引きつづいて 1971-1974 を同誌 Vol. 96 に出したものの続報である。藻類 (5 頁半)、菌類 (1 頁)、蘚苔類 (8 頁)、シダ類 (10 頁) を除いて大部分は顕花植物であって、単、複、合弁、離弁を一括して科、属、種をすべて ABC 順とし、配偶体と孢子体の二系、並びに引用文献の著者名と年号を掲げている。*Sonchus asper* の如きは 10 ぐらいの異なる文献が挙がっているが、キク科に 70 頁、マメ科に 58 頁、イネ科に 64 頁もさいっており、文献は末尾に 75 頁もついている。たった 4 年間であるが、*Paeonia peregrina* が $2n=20$ であったり、*Sinowilsonia henryi* が $2n=24$ だったり、搜がすと中々興味がある。

(前川文夫)

□Lobban, C. S. & M. J. Wynne (ed.): **The biology of seaweeds.** 786 pp. 1981. Blackwell Scientific Publications, Oxford. 約 ¥28,800. さきに出版された A. R. O. Chapman (1979) の同名の書が、細胞レベル、個体レベル、個体群レベルおよび群落レベルといったように、異なる階層から見て海藻を理解する方向で記述されている (拙訳、海藻の生物学、共立出版 K K, 1981) のに対し、今回の書は第 1 節 構造と生殖、第 2 節 生態、第 3 節 生理と生化学、第 4 節 利用となっており、そしてそれぞれの分野で対象を扱う方向をとっている。例えば第 1 節には紅藻、褐藻および緑藻の各植物の形態と分類および生活史の 7 章があり、第 2 節には地理的分布、光条件、栄養、個体・個体群・群落および形態と環境の章が盛られている。執筆者は総勢 26 名で、各章末には豊富な文献が掲載されている。海藻研究の最新の成果や研究の動向を知るのによい本である。

(千原光雄)